

Title	経済学会シンポジウム：新しい経済学：序
Sub Title	Keio economic society's symposium : new areas of economics : preface
Author	河井, 啓希(Kawai, Hiroki)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2018
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.111, No.1 (2018. 4) ,p.13- 15
JaLC DOI	10.14991/001.20180401-0013
Abstract	
Notes	経済学会シンポジウム：新しい経済学
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20180401-0013

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

経済学会シンポジウム

——新しい経済学——

河井啓希*

経済学会シンポジウムは、慶應義塾経済学会員の親睦を目的として 1965 年から実施され、本年度で 17 回目となる。こうした研究交流を継続して行うことは実は困難で、本学経済学部教員の専門分野は多岐にわたっており、研究へのアプローチの方法も大きく異なっている。さらに普段は学事や個々の研究活動に忙殺されて、異なる分野の教員間でそれぞれの研究に触れる機会は多くはない。

このシンポジウムは、多様性に富んだ経済学部教員同士が、他分野の様々な最新の研究成果に触れることで大きなシナジー効果を生むことを期待して実施されているのである。

本年度は 2017 年 11 月 21 日の三田祭準備日に新任教員の方々に報告をお願いして、慶應義塾大学三田キャンパス北館の会議室 2 において開催された。

経済学会は、経済学部教員の研究について学部学生諸君に向けて紹介するために、このシンポジウムの内容に関して報告者の方々の報告内容に基づく論文を寄稿していただいた。

今回のシンポジウムにおいては、太田淳准教授、佐藤祐己准教授、河端瑞貴教授、壽里竜教授による 4 つの報告があった。

シンポジウム第 1 報告の太田淳准教授による「植民地期インドネシア・北スラウェシにおけるコーヒー栽培の展開」では、19 世紀のインドネシア北スラウェシ地方で行われたコーヒー「自主栽培」の展開が地域の社会変容（輸送業の発展と貨幣経済の浸透）を促したことを詳細な資料の紹介を通じて示された。

続く第 2 報告の佐藤祐己准教授による“Delegated Portfolio Management and Asset Prices”では、ファンドマネジャーのインセンティブ構造と金融資産の価格形成との関係に関する理論研究を扱った同氏の 3 本の論文について解説が行われた。論文のエッセンスが図表を用いて明快に説明さ

* 慶應義塾大学経済学部

れたが、こうしたマイクロ理論に基づく研究が日本の金融システムの構造の解明につながることを確信させる興味深いものであった。

次の第3報告の河端瑞貴教授による「女性就業の空間パターンと通勤時間」では、東京近郊の1都3県の女性就業データを用いて、通勤時間と就業状況が女性の婚姻状態、子供の有無、女性の教育水準によって大きく異なることを示した興味深い研究が紹介された。報告ではデータ収集や実証分析の方法が丁寧に説明されたが、方法論など他の研究分野の教員にも大いに参考になると思われ、活発な質疑応答が印象に残った。

最後の第4報告の壽里竜教授による「マンデヴィル『公営売春宿弁護論』について」では、『蜂の寓話』の著者として知られるマンデヴィルが18世紀に発表した『公営売春宿弁護論』の社会背景とその意義、さらにはアダム・スミス、ハイエク、ケインズらとの関係について興味深い論考が示された。ユニークな語り口に加えて、深い教養に基づく文献の評価に対して、全く研究分野が異なる教員からも次々に質問が行われ、予定時間一杯まで議論が尽きなかった。

以上、4つの報告が半日をかけて行われたが、報告者を含む13名の参加者が個々の専門分野にかかわらず活発な議論が交わされ、テーマにふさわしいシンポジウムになったといえよう。

本号では、4報告のうち太田准教授より寄稿された論説と壽里教授、佐藤准教授よりそれぞれ寄稿された解説の3報告についての論文が掲載されているので、学生の皆さんも是非論文に目を通していただきたい。

経済学会は今後も活発な学会活動を企画していきたいが、こうしたシンポジウムが経済学会会員間、さらには学生の皆さんに対する知的波及効果を生む一助となれば幸いである。

テーマ：新しい経済学

プログラム：

2017年11月21日（火）午後2：00～午後6：00

14：00～15：00

太田 淳 「植民地期インドネシア・北スラウェシにおけるコーヒー栽培の展開」

15：00～16：00

佐藤祐己 “Delegated Portfolio Management and Asset Prices”

16：00～17：00

河端瑞貴 「女性就業の空間パターンと通勤時間」

17：00～18：00

壽里 竜 「マンデヴィル『公営売春宿弁護論』について」

会場：慶應義塾大学三田キャンパス・北館 1 階会議室 2

参加者（50 音順，敬称略）

池田幸弘（経済学部教授）

川俣雅弘（経済学部教授）

伊藤幹夫（経済学部教授）

木村福成（経済学部教授）

太田 淳（経済学部准教授）

佐藤祐己（経済学部准教授）

大西 広（経済学部教授）

壽里 竜（経済学部教授）

尾崎裕之（経済学部教授）

津曲正俊（経済学部教授）

河井啓希（経済学部教授）

土居丈朗（経済学部教授）

河端瑞貴（経済学部教授）

13 人